

TIA拠点活用プロジェクト つくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム (オナーズプログラム)

## 夏季集中講義(Summer Lecture in 2012)、 つくばナノテクノロジーシンポジウム(TNS'12) 開催

2012年7月11日～25日、オナーズプログラム主催の第1回夏季集中講義 (Summer Lecture in 2012 for Nanotechnology/Nanosciences)、7月26日・27日には第2回つくばナノテクノロジーシンポジウム (2012 Tsukuba Nanotechnology Symposium—TNS'12) が筑波大学総合研究棟Bにおいて開催されました。TNS'12には2日間で延べ200名以上が参加し、活発に意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。General Chairとして活躍なさった丹羽正昭教授にお話を伺いました。

昨年度開催を予定していた夏季集中講義は東日本大震災のため中止となりましたが、今年度は海外の有名大学から第一線で活躍されている以下の4名の先生方をお招きして、大学院生を対象に2週間にわたり夏季集中講義を実施することができました。このような本格的な集中講義は初の試みです。

<講師> Prof. P. C. McIntyre (Stanford Univ)  
Prof. M.V. Fischetti (Univ. Texas Dallas)  
Prof. S. S - Sandvik (SUNY Albany)  
Prof. G. P. Denbeaux (SUNY Albany)

本集中講義は、講師の先生方に1コースずつご担当して頂き、1コースは10回の授業で構成され、修了認定をされたのち1単位取得できます。暑さ厳しい2週間の集中授業でしたが、筑波大学(数理物質科学研究科、システム情報工学研究科、生命環境科学研究科、学部生等)、筑波大学周辺研究機関(NIMS、AIST)、企業、他大学(東京工業大学、東京理科大学、早稲田大学)等から約60名の皆様にご参加頂きました。

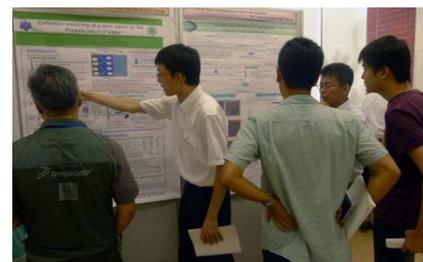
また、授業時間外においても、総合研究棟B4階ラウンジにて講師の先生方と学生、指導教員、学外研究者間での有意義な意見交換や講師の先生方に学生の所属研究室へお越し頂き、多くの学生へのご指導、活発なディスカッションをして頂きました。

集中講義に引き続いて第2回つくばナノテクノロジーシンポジウム(TNS'12)を総合研究棟Bにて開催いたしました。夏季集中講義の先生方をはじめ、TIA-nano関連の研究成果の発表を含め、ナノエレクトロニクス、ナノフォトニクス、ナノサイエンス、ナノバイオの分野から国内外の第一線で活躍の研究者をお招きして活発な討議が繰り広げられました。また、ポスター発表では、オナーズ学生やNIMS、産総研等と筑波大学との共同研究成果の発表も行われました。

本企画は、オナーズ学生諸君が世界の第一クラスの研究者と直に触れ合う経験をすることにより、国際的な感覚を養うことを目的として催されました。準備段階から長期にわたり、多くの学内・学外の皆様のご支援を賜りまして本当に有難うございました。委員長として関係各位を代表して心より御礼申し上げますとともに、継続的にこのような企画を実施できるよう努力してまいります。



General Chair  
丹羽 正昭教授  
(筑波大学数理物質系)



★夏季集中講義とTNS'12の報告は、つくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラムのホームページで詳しく読むことができます。 <http://www.tsukuba-honorspg.jp/>